



国土交通省

清水港湾事務所 100年間の主要プロジェクト 清水港 袖師第1埠頭の整備

(1971~1979)



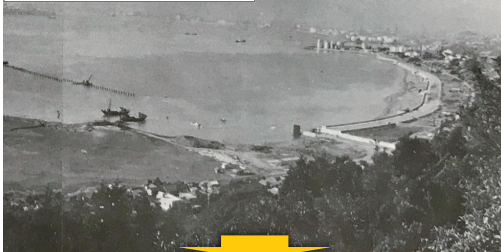
1960年代の高度経済成長に伴い、清水港の港勢が急拡大する中、1966年(昭和41年)、興津第1・第2埠頭の拡張や、袖師第1・第2埠頭、外港・三保防波堤等の建設を計画決定し、1971年(昭和46年)に袖師第1埠頭の建設工事に着手しました。

1978年(昭和53年)までに東側の6~8号岸壁が完成、1979年には西側の11号岸壁が完成し、輸入木材、コンテナ等が取り扱われました。その後、国際物流における海上コンテナ輸送の進展に対応するため、荷役機械(ガントリークレーン)等の整備が行われ、1982年(昭和57年)に、袖師コンテナターミナルが供用を開始しました。

現在は、中国・韓国航路や国内航路のコンテナ船、北海道(苫小牧)・九州(大分)等を結ぶRORO船の利用に加え、静岡県産木材(原木)の国内外への積み出し基地としても利用されています。

- 主要施設 / 袖師6~8号岸壁(水深12m、延長240m×3バース)
袖師9~10号岸壁(水深9m、延長175m×2バース)
袖師11号岸壁(水深12m、延長240m)
- 構造形式 / 袖師6~11号岸壁: 重力式岸壁(ケーソン)
- 事業期間 / 1971年(昭和46年)~1979年(昭和54年)

袖師第1埠頭整備前 (1965年)



工事中の袖師第1埠頭 (1973年)



ケーソンの据付作業 (1973年)



完成後の袖師第1埠頭8号岸壁 (1978年7月)

工事中の袖師第1埠頭 (1973年)



袖師コンテナターミナル竣工記念式典 (1982年5月26日)



清水港の欧州定期コンテナ航路第1船「ニホン」が入港 (1983年1月)



袖師コンテナターミナル (1989年)

現在の袖師第1埠頭 (2021年4月)



現在の利用状況



コンテナの積み込み (2021年5月)



RORO船からのトレーラーの積み下ろし (2021年5月)



原木の積み込み (2021年1月)